

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 門司 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

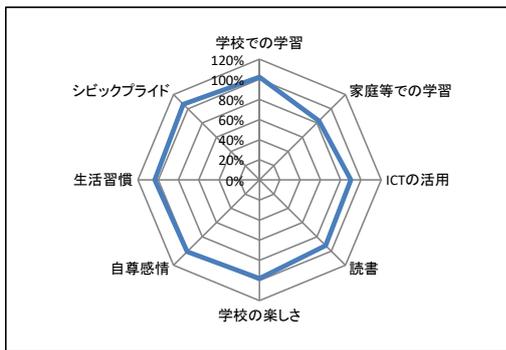
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比べると、特に資料や問題文の情報量が多い問題に課題が見られる。その理由として、内容の理解が追いつかず、設問の意図を把握しにくい傾向があることが挙げられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて伝えたいことを明確にする問題や物語について読み解く問題	
	努力が必要な問題	文脈に即した漢字の使い方や自分の考えが分かりやすく表現を工夫する問題に関する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」と「データの活用」に課題があり、選択式・短答式の正答率が低い	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必ず起こる事柄の確率や不確定な事象の起こる確率について数学的な表現を説明する問題	
	努力が必要な問題	素数の意味を理解しているかの問題と統計について相対度数の意味を理解しているかを求める問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	実験や理科の知識を問う問題についての正答率は高いが、身近な事象と実験結果から得た概念との結び付けを思考する問題の正答率がやや低い	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	水道水と精製水に関する二人の発表から理科の探究の過程における振り返りを記述する問題	
	努力が必要な問題	音に関する実験の考察をより確かなものとするために追加する実験を選びその理由を記述する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」「友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。」と回答した生徒がそれぞれ90%以上であった。これまでの授業改善の成果が、生徒たちの確かな手応えにつながっている。今後も「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立を大切にする。	
・ICTの活用については全国平均と比較して課題が見られた。今後は、個別の学習や発表の場、家庭学習など、より効果的にICTを活用する機会を増やし、学びの幅を広げる。	
・生徒全員が「人の役に立つ人間になりたい」と回答した。これは家庭や地域の方々の温かい見守りとご協力の結果であると考えている。これからも地域全体で生徒の成長を支え合える関係を大切にしていきたい。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

毎週火曜日と木曜日に放課後の学習を取り入れ基礎基本の充実を図っているが、各教科において、やや学習の定着に課題がある。一方、話し合い活動による協働的な学びを通して、思考力や判断力は向上してきているので、ICTの活用など個に応じた学習に取り組むことで生徒の学力向上に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

多くの生徒は基本的な生活習慣が定着している。しかし一方で家庭学習や読書の時間など、計画的な学習習慣の定着には課題がある。今後は、家庭と連携し生徒の学習意欲を高めるとともに、キャリア教育を通じて生徒が人生の生き方について考えたり将来の展望を持たせたりする機会を設けることで、主体的に学びに向かう態度の育成に努める。